

第3学年 社会科学学習指導案

指導者 甲州市立塩山中学校 金森 淳

1. 単元名 第1章 私たちの暮らしと現代社会 1節 私たちが生きる現代社会

2. 単元について

本単元は、中学校社会科学学習指導要領の『(1) 私たちと現代社会』における中項目「ア私たちが生きる現代社会と文化」として、現代日本の社会にどのような特色があるか、を扱ったものに位置づけられている。次の中項目「イ現代社会をとらえる見方や考え方」とともに公民的分野の導入部であり、公民という学習への興味関心を高めることが主なねらいである。

「現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させる」ことのなかの少子高齢化を扱う部分においては、近年の少子化の進行と平均寿命の伸長により、日本の人口構造が時代とともに大きく変化をしてきていることを理解させることを目的としている。「少子高齢化」の学習においては、将来的に労働力人口が減少することが予測され、家族や地域社会が変容し、介護などの福祉の充実なども予想されている。そのなかで「少子化」に着目することで、現在における日本の状態を知識として得ることから、今後の日本の人口変化を考えさせたい。そして私たちは人口減少対策としてどのようなことを行うことができ、さらに実際に実行されている国・地方公共団体、さらには企業の政策を知ることから関心を高めていくなかで、少子化について改めて考えることのできる学習を展開したい。

3. 東山梨教育協議会社会科部会の研究テーマとのかかわりについて

研究テーマである「『科学的社会認識を育てる授業研究』～身近な資料を用いた研究～」から、本部会では「科学とはしっかりとした法則に基づいた結果としての事実であるべきだ」との考えのもとに、それは時代の特性を越えて人類社会の普遍性を示すものであるべきだとしている。その社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成に繋がるものと考えられる。

- ①学習課題に主体的に向き合える生徒
- ②追求すべき課題を明確にとらえることのできる生徒
- ③自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒
- ④出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証することのできる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質を持った人間形成に繋がると考える。そこで生徒にとって身近な資料を活用することは「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずで、科学的社会認識を育てるための一つの手段ともなると言える。今回は「見通す」と「振り返る」を重視しながら、学びの繋がりを実感できる授業づくりの視点も含めて、本単元では「合計特殊出生率からみる今後の日本を考えさせる」を題材として取り上げた。資料の読み取りから「少子化」の課題に気が付いたり、小グループでの話し合い活動から生徒自身が身近に関わる問題に迫りながら、生徒がより深く学ぶ過程も重視していく。さらに、学習課題に主体的に向き合い、他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできることを目指していきたい。

4. 生徒の実態

年度当初から、明るく元気な生徒（男子14名、女子15名）が多く見られる。学校・学年として積極的に取り組んでいる挨拶や返事を積極的に行うことができ、活発な雰囲気を感じることができる反面、リーダーや指示を出す生徒の声かけに耳を傾けることができないという配慮に欠ける場面もある。

5月に行われたQ-Uアンケートのアセスメントによると、学級でのルールの確立度は5段階中3で、ルールに対する意識はあるものの教師の指示を待って行動するという傾向がある。またリレーシヨンの確率度は5段階中3で、小グループ内に閉じている傾向がある。学級全体へ親和的な広がりはまだまだ浸透していない傾向がある。学級集団の発達の方向は2で、「拡散」している学級であるといえる。そのようなことから、リレーシヨン確立度は高いとされているがルールの確立がされていない現状がある。生徒相互の声かけやリーダーの声かけに耳を傾けられず、信頼が高くないという点を課題と捉え、学校生活や授業を通して、規律をはじめとするルールの形成を行うことを心がけたいと感じ、実践している。その上で学級での人間関係を広げるためにコミュニケーションを高めるための活動としてエンカウンターなどを年間を通して行っていきたい。また今回の授業においても、生徒同士のコミュニケーションを重視しながら、そこに話し合いを行う上でのルールを持つことで、生徒がより深く学び、学習課題を解決することのできる授業を行っていきたい。

5. 単元の目標

- ・現代日本社会の特色である「グローバル化」「情報化」「少子高齢化」が、国際関係に影響を与えるとともに自分たちの暮らしや社会生活に大きな影響を与えていることを理解する。
- ・現代日本社会にあらわれた課題に気づき、捉えることで外国との交流をはじめ、自分たちがどう社会を見たり、考えたりしていくかを学習し、理解する。

6. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
・少子高齢化などの現代社会の特色やその課題に対し、国や地方公共団体が進める対策や自分たちにできることについて追求している。	・少子高齢化などが政治、経済、国際関係に影響を与えていることについて多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	・現代日本の特色や現代社会における文化の意義や影響、我が国の伝統と文化に関する資料を様々な情報手段を活用して収集している。	・現代社会の特色として少子高齢化などがあることを理解し、その知識を身に付けている。

7. 単元の指導計画

時	題材	題材のねらい	評価規準
1	つながる私たちと世界	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバルの観点から、自分たちの暮らしや世界とのつながりについて、具体的な事例を通して理解する。 ・情報化社会において、自分たちが情報を伝え合うことや世界とつながることの意味に気づき、情報との接し方や活用の仕方について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化や情報化が進む現代社会に対する関心を高め、自分たちの暮らしと世界との繋がりについて意欲的に探求しようとしている。【関・意・態】 ・グローバル化やインターネットの発達などによる情報化がもたらす長所と短所を明らかにするとともに、世界との接し方や活用の仕方について考察している。【思・判・表】
2	世代を超えたつながりへ（1） （本時）	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会の少子化について意欲的に探求することで、課題を見つけ、甲州市の現在の取り組みや今後について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化が抱える課題に対し、国や地方公共団体が進めるべき対策や、自分たちができることを探求しようとしている。【関・意・態】
3	世代を超えたつながりへ（2）	<ul style="list-style-type: none"> ・少子高齢化の課題に気づき、国や地方公共団体の対策と、自分たちができることについて考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世帯の構成割合の変化のグラフや、新聞記事などさまざまな資料から、少子高齢社会が抱える課題を読み取っている。【技】
4	豊かな生活を実現するために	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展がもたらした社会の変化や、私たちの暮らしへの影響について理解する。 ・日本人の宗教観と宗教のもつ意味や、私たちの暮らしの中で果たす役割を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学技術の発展や宗教の存在が、社会の変化や自分たちの暮らしに与えた影響について、さまざまな資料（写真・統計資料・新聞・インターネット等）から読み取り、まとめている。【技】 ・科学技術の発展や宗教が、自分たちの暮らしと深く関わり、大きな役割を果たしていることについて理解している。【知・理】
5	理解し、尊重し合うこと	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中から日本の伝統や文化、芸術を探し出すとともに、それらが自分たちの暮らしの中で、どのような役割を果たしているかを理解する。 ・異文化交流を積極的に行うことの意義について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝統や文化、芸術が自分たちの暮らしの中で果たしている役割について、追求しようとしている。【関・意・態】 ・伝統や文化、芸術が自分たちの暮らしの中で果たしている役割について、多面的・多角的に考察している。【思・判・表】

6	新しい文化の形成と地域の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・過去から受け継がれ、身近なところに息づいている伝統や文化について理解し、未来へ継承していくことの意味について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな資料から、日本の伝統や文化にはどのようなものがあるかを調べ、まとめている。【技】 ・自分たちの暮らしが多く伝統や文化とともに成り立ってきたことや、それらを継承することの意味に気付いている。【知・理】
---	----------------	---	--

8. 本時の授業

- (1) 主題名 合計特殊出生率からみる今後の日本を考えさせる
- (2) 日時 平成28年8月31日(水)
- (3) 場所 3年5組教室
- (4) 本時の目標
- ・現代社会の「少子化」をとらえ、その背景や現状を意欲的に探求しようとしている。【関心・意欲・態度】
 - ・「少子化」の課題に気が付き、国や地方公共団体の現状と対策を知ること、今後、私たちの住む甲州市がどうなっていて欲しいかを考えるとともに、小グループでの話し合い活動においてさらに考えを深めることができる。【思考・判断・表現】
- (5) 本時の展開

	学習内容と生徒の活動	教師の活動	構成・展開スキル
導入 (7分)	1. 「5. 11」「4. 54」「1. 46」という数値をもとに、何の数字か予想させる。 2. 数値に関連する新聞記事を示し、「出生率」についての記事を読ませ、簡単に感想を聞く。本日のめあてを確認し、見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板に数値の提示を行う。 ・数値が1925年から1947年、2015年と変化してきている様子を伝え、この数字が何なのかということに辿り着けるよう支援する。 ・新聞記事資料から現代社会の現状を知り、日本の少子化が課題であることを確認する。その際、生徒から「本日のめあて」を提示できるよう声かけをする。 	展：電子黒板で視覚効果を高める。 展：Q-U座席表に沿って声かけを行う。 展：電子黒板で視覚効果を高める。 展：ワークシートを使用し、簡単な感想を記入する。 構：本時の流れを確認し、合意形成する。
本日のめあて 「“1. 46” から日本について考える」			

<p>展 開 （ 3 3 分 ）</p>	<p>3. 昨年（2015年）の日本における合計特殊出生率から「少子化」について学習することを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10～14歳の甲州市における人口推移資料を見ることで、どのようなことを読み取ることができるか、ペアで考え、発表する。 ・さらに身近な山梨県の人口推移を資料で見ること、甲州市と比較させる。併せて塩山中学校開校当初からの生徒数と現在の生徒数を比較させることで人口の違いを感じさせる。 <p>4. 資料の読み取りを受け、少子化の原因について考えられるものを小グループでの話し合いから考える。それをホワイトボードに記入し、発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な甲州市で少子化への取り組みにどんなことを行っているのか、また企業の取り組みとしてどんなものがあるか、知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板を用い、10～14歳の甲州市における人口推移を折れ線グラフ資料で提示する。 ・同様に、山梨県の人口推移を提示することで、人口が減少傾向にあることを予想できるよう努める。 ・机間巡視を行いながら、少子化の原因について考えさせる。意見の出ないところは、既習事項や現状の甲州市を想起させ、声かけをしながら支援する。また出てきた意見については、補足しながら支援を行う。 ・電子黒板と実物資料を用い、実際に行われている取り組みを紹介し、身近な企業努力を感じさせられるようにする。 	<p>展：電子黒板で視覚効果を高める。</p> <p>構：ペアでお互いに意見が出せるように行う。</p> <p>構：小グループで全員の意見が出るように行う。</p> <p>展：ホワイトボードの使用で視覚効果を高める。</p> <p>展：Q-U座席表に沿って声かけを行う。</p> <p>展：電子黒板で視覚効果を高める。</p> <p>展：実物資料を用い、想像させる。</p>
<p>ま と め （ 1 0 分 ）</p>	<p>5. 本時のまとめを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国における政策を紹介するとともに、今までの話し合い活動を振り返ること、甲州市に取組みそうな政策を考える。それを甲州市に提言できるよう考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国においても少子化に対する取組みがされていることを認識させ、私たちの甲州市においても同様の取組みをしていることに気付かせる。 	<p>展：ワークシートに記入し、取組みを考えさせる。</p>

(6) 本時の評価規準

観点	評価規準	「十分満足できる」状況 (A)	「努力を要する」(C)に 対する手だて
関心・ 意欲・ 態度	・ 少子高齢化が抱える課題 に対して、国や地方公共団 体が進めるべき対策や、自 分たちができることについ て探求しようとしている。	・ 既習事項から積極的に考 え、発言している。 ・ 国や地方公共団体の対策 をよく理解し、考えを深め ている。	・ 友人の意見を聞き、自分 の考えを発表できるように 促す。 ・ 自分の考えをワークシー トに記入することを促す。
思考・ 判断・ 表現	・ 人口変化の様子を表した グラフや新聞記事など、さ まざまな資料から、少子化 が抱える課題を読み取って いる。	・ 既習事項や現在の人口変 化の様子から、積極的に自 分の意見の根拠を示し、ま とめ、発表することができる。	・ 小グループ内での話し合 いにおいて、友人の意見か ら自分の意見を持ち、考え を深めていけるようにす る。

9. 授業を終えて

(1) 授業者の反省

- ・ 指導案通り、ほぼ時間通りに授業を行えたが、授業としてさらに少子化についての深まる箇所があれば授業としても、生徒のさらなる思考としても良かった。
- ・ 授業途中で、ペアで意見を共有する場面において、また小グループで共有する場面において役割分担を行うということも含め、しっかりとした話し合い活動ができた。
- ・ 話し合う内容については、各グループにおける意見交流がさかんに行われ、生徒の一生懸命に取り組むという姿勢が見られた。
- ・ 授業での生徒の発した呟きを授業の流れに生かすことができればさらに良かった。
- ・ 発言に対して自信の持てない生徒がいるという現状より、自分の意見に自信を持たせるためにも、発問のなかに比較的容易に解答できる問いを用意し、答えさせる機会をつくることも必要であった。特に話し合いを行わせ、自分の意見を周囲に伝えるという活動が主としてあったため、その前にみんなの前での発言に抵抗のある生徒に発言できる環境づくりをすることができれば、さらに活発な意見交流ができたと思う。
- ・ 甲州市で行っているQ-Uアンケートをさらに活用できると良かった。Q-Uによる座席表などを、今後さらに活用していきたい。

(2) 研究会より

- ・ 導入から「5. 1 1」「4. 5 4」「1. 4 6」という数字を与え、何をあらわすものかを考えさせることから始められ、思考と興味関心を持たせることができた。
- ・ 関連する新聞記事を読み、考えさせることから「本日のめあて」を生徒の意見から導き出し、授業の流れを引き出すことができた。その際、教師側が用意しためあてと異なるものが意見として出たが、生徒の意見を尊重し、近い語句で示すことで生徒が授業に参加している感じを与えられたことが良かった。
- ・ 「話したい、考えたい」と思えるような動画や絵画、資料のさらなる工夫を行い、導入に使用し、授業が始められることができるとさらに良い。

・話し合い活動を仕組む際に、どの程度の話し合い活動を、どの段階で仕組み、どう意見を創っていくかをより考え、工夫した方が良かった。

・話し合い活動から、さらに自分の意見や学級での考えを深めるためにも、さらにウェビングマップやコンセプトマップなどの方法で深めることができたのではないか。深まりという点で、さらに考えさせることができたのではないか。

・提示する資料を精選し、生徒の活動の時間や思考を深めさせる時間を取った方が良かったのではないか。

・事実認識や関係認識についてはできていたが、主体認識として提言や将来、今後の日本についてどのようにするかを考えるという点で欠けていた。

・まとめの部分で、資料をしっかりと読み込んでいくことが重要である。深く考えさせることが大切である。もうひとつ掘り下げる必要がある。

・社会科としてあるべき事実を疑うことも大切である。本質に迫ることが重要であり、今回の授業についても少子化により、労働力不足・福祉についても課題として捉えることができると良い。またなぜこのような事象が起こり得たのかということを考えさせると良い。

・甲州市の現状から、事実認識やその原因を話すことが大切である。それを解消するために私たちに何ができるか、ということを示し示したい。また今後の甲州市に望むこと、個人のレベルで何をしていくことができるか、ということをより深く考えさせたい。

(3) 板書 (少子化の原因について、小グループによる話し合いの内容)

・女性の働き場所が
→ 転入する人
・人口が増えた
・大学進学が主流になり
学費がかかるため。

・戦争で若い人が少なくなった。
・女性が子どもを産む数が少なくなった。
・結婚する人が少なくなった。

・保育園が足りない
・子育てに不安を持っている
・子育て費用が高い
・仕事を優先する女性が多い

・子供をあまり産まなくなった
(生活が大変になるから)
・結婚する人が少なくなった
(仕事に専念)
・結婚する年代が上がったから
子供はあきらめた

原因
・景気が悪い。結婚が減った
・結婚する年代が上がった。
・家計が大変になるから。
・別れる人が増えた。

・別れる人が増えた。
・結婚をしない人が増えた。
・保育園が足りない。
・教育費がかかる。
・仕事と子育ての両方ができない。
・不安がある

・働き方改革で働きやすくなったから。
・経済的な負担が少なくなるから。
・保育園が足りない。

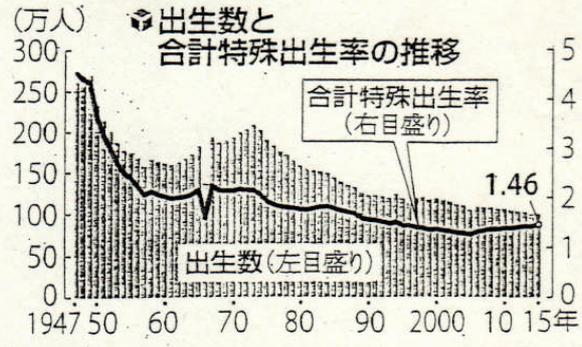
・保育園が足りない。
・結婚したい人が少ない。
・男の人が少ない。
・仕事を優先する人が増えた。
・産む人が少ない。

・産む人が少ない。
・女性の結婚願望があまりない。
・子育てが大変。(時間とお金)
・子どもを産む意欲が...
・結婚が怖い。
・17マンが少ない。
・理想の相手が見つからない。

出生率 1.46 に回復

昨年、21年ぶり水準

人口自然減28万人



厚生労働省は23日、2015年の人口動態統計（概数）を発表した。1人の女性が生涯に産む子どもの推定人数を示す合計特殊出生率は1・46で、2年ぶりに上昇した。前年を0・04ポイント上回り、1994年の1・50以来、21年ぶりの水準となった。赤ちゃんの出生数も5年ぶりに増えたが、死亡数から出生数を引いた人口の自然減は過去最大を記録した。

出生数は100万5656人で、前年より2117人増えた。出生率を年代別に見ると、30歳代の伸びが目立ち、40歳代と20歳代後半も上昇した。都道府県別では、前年と同じだった岡山県を除く46都道府県で上昇。最高は沖縄県の1・94で島根県（1・80）、宮崎県（1・72）と続いた。最低は東京都の1・17だった。

平均初婚年齢は男女とも

前年と同じで、夫31・1歳、妻29・4歳だった。1人目を出産した時の母親の平均年齢は前年より0・1歳高い30・7歳となり、23年連続で上昇した。

出生率が上昇した理由について、厚労省は「経済や雇用が改善し、先行きに明るさが見えたことが影響した可能性がある」と分析。ただ、出産の中心となる15〜49歳の女性人口は減っており、「少子化という厳しい状況は続く」と見ている。一方、人口の自然減は28

2016年5月24日読売新聞より